



学校だより



7月号

鳥取県立白兔養護学校
令和6年7月22日発行

＜東部地区特別支援学校就労促進セミナー＞

7月に入り、36度を超える暑い日があったかと思うと、強い雨が続くなど、厳しい天気が続いています。中でも、先日は高等部が東京方面へ修学旅行に行ったり、中学部は校外宿泊学習をしたりするなど、いろいろな活動に取り組みました。日常の活動でも、プールの学習や中庭での水遊びの中などで、子どもたちのたくさんの笑顔が見られています。

さて、7月9日（火）に鳥取県福祉人材研修センターで東部地区特別支援学校就労促進セミナーを開催しました。「障がい者とともに働くために」というテーマを掲げ、東部地区の特別支援学校5校が主催し、鳥取労働局と鳥取公共職業安定所の後援を受けています。10年以上継続して開催している事業です。本校も高等部リバーコースの3年生が参加しました。

まず、食品加工製造に関連した会社に就職した本校卒業生の話聞き、参加した生徒たちが質疑応答をしました。卒業生の話の中で、「在校生に伝えたい事を、一言で言うと、“どんなことにも、まじめにとりくむこと”」という言葉が印象的でした。

その後、企業の方と生徒が話し合いを行いました。事前のアンケートで生徒たちの関心の高かった「働きやすい職場とは?」「給料はどうやって決まるの?」というテーマで、まず生徒たちが話し合った後、生徒たちの意見について参加した企業の方から、アドバイスや説明を受けました。特別支援学校5校の生徒たちが輪になって行った話し合いでは、いろいろな意見が出て、生徒たちが「働くこと」についてどのように考えているのかがうかがえました。40分間ほどの時間でしたが、もっと時間があればと思うほど盛り上がりました。

全体のまとめでは、鳥取労働局と職業安定所の方から、いろいろな制度やサービスの活用をしてほしいというお話がありました。研修センターの大きなホールで、本校の3年生が真剣にそのお話を聞いていました。来年は社会人としての生活が始まるという自覚が少しずつ生まれていることを感じました。

本校には、この春入学した小学部1年生の児童から、18歳の高等部3年生が在籍しています。白兔養護学校での日々の生活が、子どもたちが将来社会へ巣立つ際に有意義なものとなるよう取り組んでいきたいと改めて感じました。

1学期を終えようとしています。日頃から学校の取り組みにご理解ご協力いただき、本当にありがとうございます。蒸し暑い日が続きますが、お家の方々もお体にお気をつけてお過ごしください。（教頭 中垣克彦）

令和6年度 東部地区特別支援学校就労促進セミナー

「障がい者とともに働くために」

日時 令和6年7月9日(火) 場所 福祉人材研修センター
10:00~12:00 鳥取県伏見1729-5 tel:0857-59-6330

① 就労した卒業生と在校生との交流
就年開学し続けている卒業生の話聞きます。その後、卒業生と在校生が質疑応答しながらそれぞれの思いや感じたことを伝え合います。

② グループ協議 (事業所の事例紹介をもとに)
だれもがいきいきと活躍できる就労を目指して産官学、保護者、生徒で思いやアイデアを出し合う場です。

③ 協議報告と関係機関からの話
話し合った内容の報告と関係機関からの話です。

主催 東部地区特別支援学校
鳥取県立白兔養護学校(会場)、鳥取県立鳥取南高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、鳥取県立鳥取西高等学校、鳥取県立鳥取北高等学校
後援 鳥取労働局、鳥取公共職業安定所

促進セミナーチラシ



卒業生の話



グループでの話し合い



< 「あのとときの先生」 >

小さい頃の私は「超」が付くぐらいの恥ずかしがり屋で、家族以外とは話ができず、近所の文房具屋さんにも必ず父に付いてきてもらい、買い物をするほどでした。

小1の時、思い返しても自分から手を挙げて発表した記憶は一度もありません。

ある日の国語の時間、私は先生からの問いかけに、自分の考えをノートにいっぱい書きました。でも、そのあと何人かの友達の発表を聞いて、私は思わずノートに書いた自分の考えに大きな×を付け、急いでみんなと同じ内容になるように書き直しをしました。（「消しゴムは使わない」という担任の先生の方針だったので、間違えても消すことができなかったのです。）

後日返されたノートを開いてみると、そこには、大きな×を付けた私の思いの方に、ノートからはみ出しそうになるぐらいの大きな花丸と金ぴかのシール5個、それから、私に向けて、きれいな先生の文字がいっぱい並んでいました。私はその時「みんなと同じでなくてもいいんだ。先生は私を見てくれた。」と感じました。

小4の時、人気者だった先生の机の周りにはいつも休憩時間になると人がいっぱいいて、何重にも取り囲んでいました。先生のそばに行きたいのに前には行けず、いつも友達の背中越しに先生の声を聞いていました。

「肩をたたいてほしい。」「私がする!」「僕もしたい!」「じゃあ、順番にね。」そんな会話が聞こえてきました。私も「先生の肩をたたいてあげたい」、と思いましたが、声が出ません…友達が交代しながら先生の肩をたたいたりもんであげたりしているのを後ろで眺めていると私を呼ぶ先生の声。私に湿布を貼ってほしいと先生。私はみんなに見られながら先生のそばに行きました。嬉しいのになぜか出てきた言葉は「手が冷たいから…。」それでも先生は「大丈夫。」と言い、冷たい私の手を取って、湿布を貼るように促してくださったのです。私はその時も「先生は私を見てくれている。」と感じたのでした。

あれから何十年も経った今、私は白兔の子どもたちから「先生」と呼ばれ、毎日たくさんの笑顔に囲まれています。そしてたくさんの素敵な白兔の先生たちに出会っています。

ある日の下校、送迎車までの道のり。高等部のAさんは足取りが重そう途中で止まってしまいました。前を歩く先生はそれに気づいて「大丈夫。大丈夫。」と背中に応援しているよう。でも、一向に前に進めないAさん。たまりかねて先生が振り向くとAさんは小走りに先生のところへ駆け寄って「一緒に…」と言います。間違いなくそこには信頼する先生との穏やかな関係ができていたのを感じました。

ある日の水泳の授業。顔付けが前回よりも少し長くできた小学部のBさん。カ一杯の拍手と満面の笑顔で一番喜んでいたのは、他の誰でもない担任の先生でした。

ある日の中学部の理科の授業。笑いあり驚きあり発見あり。楽しい実験をしている間の子どもたちの集中力は驚くほどで、目は常に先生に釘付け!私もワクワクしました。

ある日の訪問学級の授業。Cさんはゆっくりと頭を動かし、先生の優しい声、まなざしを受け止め、いろいろな音を感じています。間違いなくそこにも、先生と一緒に安心して学んでいるCさんの姿がありました。

1学期間、164名の教職員一人一人は私の恩師のように、白兔の子どもたちに寄り添い、個を見つめ、励まし、成長を喜びあってきました。

明日から長い夏休みに入りますが、2学期も「先生は見てくれている。」と白兔の子どもたちにたくさん感じてもらえるよう、しっかり準備を整えます。

何かあればいつでも遠慮なくご連絡ください。（副校長 山根孝子）